



冷害の

東北を救ふの途

四

黙謡生

若し電力会社が單に電力料に出る者で賑つたもので今金の低減を計る目的の救済の如く金肥の使用は極め策であるなれば以上の觀點にて少く緑肥を以つて自給より讀意を表し得ないので足して居たから冷害を受けあるが低電力供給に依り農漁村に工業を勃興せしめる導因たらしむるものとする故に農漁村に適せる工業を指導奨励する機關を設け何故に農漁村に適せる工業のがあるけれども勤労を以つて緑肥を出来得るだけのものであるか。興業會社が指導奨励の任に衝り兩社を以つて兩輪の役割を盡くさしめて救済の目的を遂げるものと解したいのである。兩社の目論見には之を覺えし得ない事を遺憾とするものである。

時代小説

五郎んべ源次(二)

五郎んべ源次(二)